

教育目標		命輝き 笑顔輝く 昆陽里小学校 一心豊かにたくましく生きぬく力を育てる						
重点目標		①一人ひとりを生かし、確かな学力の定着を図る学校 ②学習する意欲や豊かな心を育む環境が整備された学校						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的、基本的な知識・技能を習得する。</li> <li>授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週に1回は、漢字の小テストを行い、定着を図る。</li> <li>全国的に使用されているワークテストを購入し子どもたちの力をよりよくみとる。</li> <li>音読カードを工夫し、滞りなく音読できるようにする。</li> <li>できる、わかる授業作りをすすめる。</li> <li>全学年が算数科を中心に授業力向上のための授業公開を1回以上する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字大テストで学年平均が80点を超える。</li> <li>全体の平均点が85点を超える。</li> <li>100字程度の文章を滞りなく読むことができる。</li> <li>児童アンケートの「授業がわかりやすく楽しい」「先生は教え方を工夫している」で80%以上の回答。⑫⑭</li> <li>学力向上のための全校公開授業数が6回を越える。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均点は80点程度であるが、同学年でも点数差が見られた。</li> <li>全体の平均点は80点程度であったが、学年や単元による点数の違い、同学年でも点数差が見られた。</li> <li>家庭の協力もいただき、文章を滞りなく読める児童は増えてきているが、目標に達しない児童もいる。</li> <li>児童アンケートの「授業がわかりやすくて楽しい」で85.4%、「先生は教え方を工夫している」で96.4%の回答。⑫⑭</li> <li>人数制限等コロナ対策を行いながら、3回の授業公開ができた。全体で集まるのが難しいため、Zoomを活用して事後研を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な指導法の研修を行い、子どもが漢字学習に取り組む際の選択肢を増やす。</li> <li>パワーアップタイムをよりいっそう活用するなど習熟しにくい子に個別の関わりを増やしていく。教科書を頼りに自分で学習できるように指導していく。</li> <li>特別支援教育の視点を踏まえた音読の仕方についての研修会の開催に向けて準備する。</li> <li>校内研修も含めながら、授業を工夫していく。</li> <li>1人1台のタブレット導入により更なるICT機器の活用を目指していく。</li> <li>人に授業を見てもらう機会を増やすため、授業公開掲示板のようなものを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着の徹底を図ると共に、子どもたちの達成感や満足感を促す場面づくりが必要である。子どもたちは友だちと一緒に問題解決したり、教え合うことに喜びを感じている。アウトプットの場を仕掛けるなど、自発的に意欲を持って愉しく学ぼうとさせる授業づくりに期待する。</li> <li>特色ある教育課程として金曜日6校時枠にパワーアップタイムを設け、学力低位層の児童への学力補充の枠組みが既にできている。今後は、期待される効果が得られているかを検証することが必要である。</li> <li>タブレット一人一台配付され、文房具のように使う時代が来ている。活用を始めている学年の授業の様子も見られた。校内研修をとおして、発達段階に応じた指導を行い、ペア学習やグループ活動に活かすなど、主体的・対話的な学習につなげてほしい。</li> </ul>
	学習習慣の定着と読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習を充実させ、家庭学習の定着を図る。</li> <li>読書活動を充実させ、表現力・創造力の豊かな子どもを育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の意識向上と保護者の関わりをより促すよう、がんばりカードの形式を改善する。</li> <li>児童の興味関心を引き出すような図書を選定を行う。</li> <li>二教室になった図書室の環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの「家庭において目安の時間～低30分、中60分、高90分～」で80%以上の回答。⑦</li> <li>児童アンケートの「進んで読書をしている」で90%以上の回答。⑧</li> <li>電子化が完了し、運営がしやすくなる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの「家庭において目安の時間～低30分、中60分、高90分～」で65.9%の回答。⑦前年度比-2.6%</li> <li>児童アンケートの「進んで読書をしている」で75.1%の回答。⑥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がんばり週間が普段にも広がり、定着していくよう、日々にも自学を広げる。</li> <li>自分から学習を広め、進めるような投げかけを学習の中で意識する。</li> <li>学習の中で意識的に読書活動を取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任と学校司書が連携し、授業に関連する図書を特設コーナーで配置するなどの取組がよい。</li> </ul>
豊かな心	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「心の教育」を推進する。</li> <li>いじめ問題への対応力の向上に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会によるあいさつ運動を推進する。</li> <li>人権学習を実施する。</li> <li>年3回アンケートを実施し早期に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「あいさつをしている」で90%以上の回答。④</li> <li>児童アンケートで「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」で90%以上の回答。⑧</li> <li>児童アンケートの「学校へ行くのが楽しい」、「学校行事は進んで参加している」で90%以上の回答。①③</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「あいさつをしている」で82.9%の回答。④前年度比+0.2</li> <li>児童アンケートで「自分を大切にすることや、人にやさしくすることができている」で88.4%の回答。⑧前年度比-3.5%</li> <li>児童アンケートの「学校へ行くのが楽しい」で89%、「学校行事は進んで参加している」で93.9%の回答。①③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策に留意した新しいルールに準じてあいさつ運動を推進していく。</li> <li>あいさつ強化週間を設ける。</li> <li>道徳科では、児童の実態に合った教材選びをし、年間計画に沿って丁寧に取り組んでいく。また、日々の生活の中でも授業の学びを活かせるようにし、個々の子どもの居場所がある支持的風土のある学級作りに学校をあげて取り組んでいく。</li> <li>クラスが安心できる居場所になるよう、子に寄り添う指導を職員全体で心がける。また、コロナが収束すれば子どもが活躍できる行事を通して自己肯定感を高めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の見守り活動や、旗当番のとき、あいさつを返してくれる子どもが多く、微笑ましい。中学生の方が、積極的にあいさつを返してくれる。小学生は、知らない人には抵抗があると思われるが、気持ちのよいあいさつのできる子どもに学校、家庭、地域が連携して育てていきたい。</li> <li>遅刻の常習や登校しぶり、不登校などの児童の実態を課題と受け止め、保護者や地域、中学校と連携して課題解決していくなどのプランがあるとよい。子ども一人ひとりを長い目で見ていくことが大切である。</li> </ul>
	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康的な生活習慣を育む態度を育てる。</li> <li>児童の健康の保持・増進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間に身体を動かす機会、場を設定する。</li> <li>こやチャレを計画・実施する。</li> <li>ドッジボール大会を計画・実施する。</li> <li>歯磨きカレンダーを活用して歯磨きの習慣をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「業間は外遊びをしている」で80%以上の回答。⑮</li> <li>学期に1回こやチャレを実施する。</li> <li>保護者アンケートの「学校は子どもの体力向上や心身の健康のための取り組みを行っている」で90%以上の回答。⑪</li> <li>歯みがきカレンダー表彰で、全クラスが年間1回以上表彰される。⑪</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「業間は外遊びをしている」で65.9%の回答。⑮前年度比+4.4%</li> <li>スポーツ委員会で児童が企画を検討したが、感染症対策等のためこやチャレ及びドッジボール大会を実施しなかった。</li> <li>保護者アンケートの「学校は子どもの体力向上や心身の健康のための取り組みを行っている」で94%の回答。⑪</li> <li>感染対策により、全校のはみがきの取組はできなかった。はみがきしなかったら気持ち悪いと思っている児童が多かったことから、前年度までの取組の成果であったと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策を進めながら、コロナが収束すれば、児童が気を遣わずに、さまざまな外遊びを行える環境を整えていきたい。</li> <li>新しい生活様式でできることを検討する。</li> <li>体力向上に合わせて、心身の健康や感染症の理解を深める学習計画を立てていく。</li> <li>全校生のはみがきを続けていけば、手洗い場の数を増やす、センサー式の蛇口の設置などが必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊びについては、目標値を10%以上下回っているが、前年度比では上回っている。担任の先生がみんなを外遊びをしようとして動かしていることはよい。一方、外遊びすることが休み時間の過ごし方として最適というわけではない。大切なことは、自分がそのとき何をしたいかを考えて、主体的に過ごせることではないか。</li> </ul>

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校便りを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを週1回更新する。	・学校便り、学年便りを月1回以上発行する。 ・学校ホームページを週1回更新する。 ・学年ごとに月に3回更新する。 ・保護者アンケートの「学校が、学校便りやホームページなどを通して教育活動の内容や様子を知らせていることを知っている。」で90%以上の回答。⑬	A	・学校便り、学年便りを月1回以上発行した。 ・学校ホームページを週1回更新した。 ・学年ごとに月に3回以上更新した。また、システム担当からも学校の様子についてこまめな発信を行った。 ・保護者アンケートの「学校便りやホームページなどを通して～」で96.8%の回答。⑬前年度比+1.4%	・今年度どの項目においても達成できた。来年度も引き続いて行い、学校情報の発信に努める。	・コロナ禍にあり、今まで以上にホームページが保護者間で情報源として意識されている。発信するところに情報は集まるという。学校だよりをはじめ、ホームページ等による情報発信力に期待する。
	学習環境の整備	・学習環境の整備を行う。	・清掃週間等を活用しながら、清掃指導の徹底を行う。 ・委員会活動を通して、児童への清掃指導を行う。	・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」で90%以上の回答。⑩	A	・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」で92.2%の回答。⑩前年度比-0.8% ・新規に配置されたスクールサポートスタッフが換気、トイレ掃除等を行い、感染症対策を補完している。	・来年度も引き続き清掃週間等を活用しながら清掃指導の徹底を行っていく。	
	地域との連携	・地域との交流を図る。	・学校公開日、参観授業等を実施し、地域との交流を図る。 ・学校運営協議会の学校参画。 ・地域の水田ビオトープで発達段階ごとに米作り体験を行う。 ・こやっ子グリーンサポーターズを中心に学校の植木や花壇等の環境整備を保護者と共に行う場をもつ。	・保護者アンケートの「地域に開かれた学校だ」で85%の回答。⑮ ・協議会を年3回実施する。 ・代掻き、田植え、稲刈りの体験活動を行う。 ・花壇の花々の植え替えや土壌改良を保護者と共に学期に1回以上行う。	C	・保護者アンケートの「地域に開かれた学校だ」で88.3%の回答。⑮前年度比-3.7% ・学校再開後、協議会を2回実施した。 ・学校再開後の授業時数確保のため、行事を精選し、代掻き、田植え、稲刈り等の米作り体験を行わなかった。 ・学校再開後、こやっ子グリーンサポーターズのメンバーによる平素の活動を再開した。	・保護者、地域住民の理解、協力が一層進むように引き続き情報発信していく。 ・委員の実情に合わせてリモートによる協議会を検討する。 ・新型コロナウイルス感染症が収束するまでもちつき大会は自粛すべきであるため、感染症拡大状況から来年度も米作り体験を行わない。 ・感染症対策を取りながら、可能な範囲で保護者と共に花壇等の環境整備を行う。	・学校行事も地域行事も縮小もしくは中止となる中、交流は難しかったと思われる。次年度は、感染症対策を講じながら、できることを検討していただきたい。
	保護者との連携	・行事の公開、懇談会、参観授業を充実する。	・家庭の要望に寄り添った懇談会の内容の精選と内容の充実を目指す。 ・参加しやすいように日程を調整する。 ・PTA学力向上委員会と連携し、年2回の家庭学習がんばりカードを有効に活用し、学習習慣を身につけさせる。	・保護者アンケートの「学校は保護者の願いに込めている」で90%以上の回答。⑫ ・体育参観の分散開催に向けて、兄弟関係を考慮した日程にした。 ・資料を配付し、各家庭に学習習慣が定着するよう、啓発を図る。	B	・保護者アンケートの「学校は保護者の願いに込めている」で87.1%の回答。⑫前年度比+5.2% ・感染症対策のため、通常の参観日を行わず、体育参観日のみ実施した。3密を回避するため、兄弟関係を考慮し、参加しやすい日 ・資料を配付し、各家庭に学習習慣が定着するよう、啓発を図った。	・懇談会では、テーマを設定したり、学年で行ったりと、工夫して行うようにする。 新しい生活様式で行えることを検討する。 ・普段から家庭に宿題の確認を促すようにする。	

学校関係者評価総括

- ・新型コロナウイルス感染症対策を適切に講じながら、工夫し、教育活動を進めてきたことを評価する。現場はよくがんばった。
- ・あいさつのできる子どもたちを育てることは、学校のみならず、家庭、地域が一体となって行うことであり、継続すべきことである。
- ・全員が「学校へ行くのが楽しい」と思える学校づくりをめざしてほしい。そのためには、友だちと学び合える授業や、友だちと一緒にできる体験活動など、感染症対策を取りながらすすめていくことに期待する。
- ・メディア・リテラシーの知識理解を発達段階に応じて習得させると共に、授業でのタブレットの積極的な活用の開発に期待する。
- ・人材育成のシステムがより一層機能することが重要である。

重点的な改善点	<p>1 児童の学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動を中心に据えて、教職員の資質の向上を図り、授業改善を推進する。</li> <li>・ミドルリーダーを核として、同僚性を高めるとともに、授業力の向上を図る。</li> <li>・客観的な数値に基づき、学力を検証し、学力向上プランを見直す。</li> </ul> <p>2 児童の自尊感情の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居心地のよい学級作りにより、安心して学校生活を送らせる。</li> <li>・異学年交流により高学年に自己有用感を持たせる。</li> </ul>
---------	--

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標通りに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った